

京都三条ー日本橋 中山道シリーズ

起渡し跡 - 佐渡り渡し跡 美濃路走り旅

十六年六月三十日

フル百回楽走会
593
 武藤 翔峰

自宅のすぐ近くを美濃路街道が通っています。この街道は江戸時代重要街道の一つで、東海道宮宿と中山道垂井宿を結びいわばバイパス道路の役割をした街道でした。東海道宮宿から濃尾平野を北上し名古屋宿ー清洲宿ー稲葉宿ー萩原宿ー起宿ー墨俣宿ー大垣宿ー中山道垂井宿合流となる7宿14里24町15間、約58.7kmの道程でした。京へ上る場合、宮宿から東海道を利用するより2里程道程は遠くなりますが、「七里の渡し」で海路をゆく危険性を避け、この街道を利用する旅人が多かったようです。自宅のすぐ近くを歴史ある美濃路街道が通っているという幸せを噛みしめながら、梅雨の晴れ間を縫って木曾川起渡し跡から揖斐川佐渡り渡し跡まで、普段の生活基盤のところを通る街道を走ってきました。といっても、毎朝朝練で走っているいつものコースです。二人の孫が通う小学校もコースの一部です。毎日のジョギングの一環としていつものように、いつものところを走りました。



起渡し船場がスタート



起渡し船場石灯台



「右いせみち左おこし舟渡」



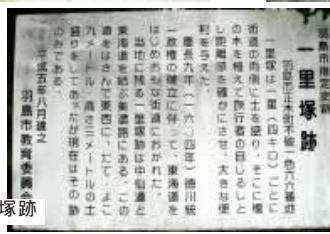
美濃路街道の道標



美濃路街道



正木小一里塚跡



一里塚跡



孫の通う正木小学校



間の宿跡



「親鸞聖人御旧跡」



毎朝のトレーニング道路



小熊一里塚跡



史跡一里塚跡



墨俣宿本陣跡



文殊 墨俣宿



墨俣脇本陣



東結一里塚



佐渡川(揖斐川)の渡しがゴール